

<2019年度 ハローオリンピック事業>
オリンピック教室

実施報告書

埼玉県 川越市立寺尾中学校



「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年12月11日 (水)

■ク ラ ス : 2年1組 (37名)

■オリンピアン : 桧野 真奈美 先生 (ボブスレー) 【出場オリンピック/トリノ大会、バンクーバー大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



・自己紹介し、今日はオリンピックのことを学んで自分の生活の中に取り入れてもらいたい。オリンピックバリューについて、「エクセレンス」= 全力で頑張る、一生懸命、「フレンドシップ」= 協力、助け合う、「リスペクト」= 尊敬、相手を思いやる、ルールを守る、この3つの価値であると解説し、オリンピック選手だけのものではなく、皆のものであるということを、今日の授業を通して感じてもらいたいと話し、準備運動に移る。
・準備体操として、ストレッチ、ラダートレーニングを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



・そりりレー(全3回)を6班対抗で実施。2人組で、1人がそり(バスマット)にのり、もう1人がそれを引っ張って進み、折り返し地点で、役割を交代し、次のペアに交代するりレー。どうしたら、うまく引けるかなど各回終了毎に作戦を考える。

4. まとめ



・どんなところにオリンピックバリューを感じたかを確認し、オリンピックバリューは私たちの日常の中にもあふれていると話す。この1時間の中だけでも感じられたので、これからさらに日常の中でもオリンピックバリューを大事にしてほしいと伝え、授業が終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・写真と映像を見せ競技を説明。自身の経験談を基に、オリンピックバリューについて考えていきたいと、授業の目的を確認。
- ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「卓越、全力、努力する、諦めない、ベストを尽くす、一生懸命やり尽くす」(エクセレンス)、「友情、協力、思いやり、チームワーク、助け合う」(フレンドシップ)、「敬意/尊重、フェアプレー、ルールを守る」(リスペクト)と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：クラスをより良くするために何ができるか考えてみよう

発表：「メリハリをつける、時間前行動をする、授業中に私語をせず集中する、目標を持って行動に移す」(エクセレンス)

「思ったことをすぐに言わない、平和主義、団結力、ネガティブな発言をしない、仲良くする」(フレンドシップ)

「提出物を出す、相手のことを思いやった行動をする、授業中に私語をしない、授業を真剣に受ける」(リスペクト)

4. まとめ



・オリンピックバリューはオリンピックだけのものではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。オリンピックバリューを大切に、後悔のないようこれからの人生を送ってほしい。

・東京2020大会では、埼玉県でゴルフ、射撃、サッカー、バスケットボールの試合が行われる。各競技の選手がどのようにオリンピックバリューを体現しているか注目し、積極的にオリンピックに関わってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日 : 2019年12月11日 (水)

■ク ラ ス : 2年2組 (37名)、2年3組 (36名)

■オリンピアン : 須佐 勝明 先生 (ボクシング) 【出場オリンピック/ロンドン大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介し、オリンピックバリューについて「エクセレンス」=卓越、ベストを尽くす、「フレンドシップ」=仲間、仲間を大切にする、「リスペクト」=尊敬、感謝の気持ち、と説明し、我々が普段日常で活かせるようなことがオリンピックの背景に存在しているということを、今日は皆に伝えたいと話す。ボクシングのデモンストレーションをした後に準備体操に移る。
- ・準備体操として、自衛隊体操、ウズベキスタン体操、2人組でのゲームを行った。

3. 主運動



- ・タッチゲーム(20秒×5試合)を班対抗で実施。1対1で、相手の肩・お腹・膝をタッチするか、足の甲を軽く踏み、多くタッチできた方が勝ちとし、勝ち数を競う。班対抗の総当たり戦で実施。

4. まとめ



- ・この後の座学の時間では、オリンピックバリューが皆の普段の生活にも存在することについて詳しく説明していくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



・スライドと映像をを見せ競技を説明。自身の経験談を基に、オリンピックバリューについて考えていきたいと、授業の目的を確認。
 ・自身の経験を通じて感じたオリンピックバリューについて「卓越、ベストを尽くす、一生懸命頑張る、諦めない、努力する、全力で取り組む」(エクセレンス)、「友情、仲間、チームワーク、お互いを理解する、協力」(フレンドシップ)、「敬意/尊重、ルールを守る、感謝、フェアプレー、思いやり」(リスペクト)と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



発問：オリンピックバリューをどのように活かせるか、具体的に書き出してみよう。(部活、勉強、学校行事、習い事等)
 発表：「勉強でベストを尽くす、部活の試合で諦めずに頑張る、テストで良い点を取れるように努力する、間違えても諦めない」(エクセレンス)
 「学校行事で協力する」「部活で互いに高め合う」「仲間を大切にする」「チームワークを大切にする」(フレンドシップ)
 「感謝の気持ちを言葉にする」「部活のルールを守る」「作ってくれたご飯を残さず食べる」「相手を敬う気持ちを持つ」(リスペクト)

4. まとめ



・東京2020大会では、埼玉県でゴルフ、サッカー、射撃、バスケットボールの試合が行われる。選手が頑張る姿と自分を重ね合わせて、オリンピックを自分の糧にしてほしい。
 ・オリンピック教室で学んだことを日常生活に取り入れ、豊かな人生を歩んでほしいと伝え、授業終了。